

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

海運はどのように生活と かかわっていたの？

(一橋大学 2015年 日本史)

「Z会ナビ」が
Webサイト
でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

近代の日本における海運業は、日本経済の発展に大きくかかわりました。政府の保護によって誕生した日本郵船会社は、遠隔地との航路を開設し、綿花・生糸など重要な品物の輸送を担いました。第一次世界大戦期(1914~18年)には、世界的な船舶不足を要因として、海運業・造船業が日本経済を引っ張りました。その後、日中戦争(1937~45年)が始まると、日本経済は全面的な統制経済に突入しました。太平洋戦争期(1941~45年)には、日本経済にとって船舶輸送能力が重要になりましたが、軍事に転用される船舶の増加や制海権・制空権の喪失から、日本の海上輸送は開戦後の早い段階でその機能を失い、多くの混乱を伴いながら終戦を迎えることになりました。

問 太平洋戦争末期の船舶不足について、生活物資の面でどのような影響があったのか、説明しなさい。

近代の日本が貿易により経済を拡大する際には、輸送量が多く効率もよい海運の発達が非常に大きな役割を果たしました。第一次世界大戦期には、主な戦場となったヨーロッパで船舶が不足することで、戦火の影響が小さい日本の海運業・造船業が飛躍することになりました。徐々に進展してきた日本の海運が太平洋戦争期にどのようなようになったのか、見ていきましょう。



イラスト・瑞木匠

戦争中の命綱

戦争に必要な資源をめぐる攻防

日中戦争により日本の中国進出が進展すると、アメリカは日本への態度を次第に硬化させ、鉄や石油・航空機用燃料の日本向けの輸出に制限をかけるようになりました。

戦争用の資源をアメリカに頼っていた日本は苦境に立たされ、資源を獲得すべく、フランス領インドシナ(現在のベトナム、ラオス、カンボジア周辺)へ進出しました。また、失敗には終わりましたが、民間商社を通じ、外国の油田や鉱山を獲得する努力も行われました。そして、各地で獲得した資源を日本まで輸送するための海運

が日本の命綱になっていったのです。

海運の崩壊と生活の崩壊

太平洋戦争が進むと資源は枯渇し、物資輸送用の船舶もどんどん軍事に転用されました。また、1942年ごろから敗戦が相次ぎ、制海権・制空権を失っていった日本は物資を安全に海上輸送することが困難になっていきました。

植民地や占領地からの物資が日本国内に届かなくなったことにより、国内の生活物資は枯渇しました。買い占めや価格高騰を防ぐために切符制・配給制が導入されたり、「ぜいたくは敵だ」などのスローガンにより節約・節制を奨励したりといった工夫がとられましたが、品不足に苦しむ状況は改善されませんでした。

また、植民地や占領地などの戦地への補給もたたれ、日本軍による現地での収奪行為が深刻化しました。海運がたたれたことで、日本国内外の生活物資は不足し、深刻な困窮に陥ったのです。

【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

命綱だった海運が崩壊したことにより、太平洋戦争期のひとびとの生活は困窮しました。現代の私たちの生活では、物流が生活にどのようなかかわっているか、考えてみましょう。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。